

画期的な技術での、オンリーワン製品を展開

～ハイテン鋼を使用したグレーチング事業等をSNSでも広く周知～



株式会社 宝機材

代表取締役社長

浅野 寛榮氏

- 住 所： 瑞穂市別府1723番地1
- T E L： 058-327-2222
- U R L： <https://www.takara-kizai.com/>
- 事業内容： 各種グレーチング製造販売、各種鋼製排水溝製造販売、各種土木建築鋼製資材製造販売、各種太陽光発電用架台・鋼管杭製造販売
- 従業員数： 39人(グループ全体161名)

■「宝機材」の歴史について

聞き手：まずは御社の歴史についてお聞かせください。

浅野社長：当社は1972年から操業しまして、最初は土木や建築資材の卸売からスタートしました。しかしオイルショック後から景気が悪くなり、利幅が減ってしまった時期がありました。

そこで、当時売れ行きが最も良かった鋼製グレーチングに目をつけまして、1982年に専用の工場も作り、本格的に着手したのが始まりです。

聞き手：転換期などもあったのでしょうか。

浅野社長：グレーチングを中心とした事業を進めていく中で、2010年に表面処理を行うための亜鉛のメッキ工場を稼働させたことかもしれません。

というのも2003年頃から中国経済の調子が上向きになり、亜鉛の相場が跳ね上がりました。すると表面処理をお願いしていた企業からは価格、特に納期について調整が難しくなる時期がありまして、このままでは注文は頂けるのに、量をこなすことが難しい状況となりそうでしたので、自社で最後まで仕上げられる体制へと会社の在り方を変えたのが転換期だったと思います。

■ 事業概要について

聞き手：次に事業概要についてもお聞かせください。

浅野社長：当社の売り上げの構成比率で言いますと、70%くらいがグレーチング事業、20%くらいは防災・減災や維持・修繕に関する土木系の金物、5%くらいが鋳物・ステンレス製品の土木建築資材、さらにもう5%が外部のめっき事業という比率です。

グレーチング事業としてはニッチな業界となっており、全国でも事業展開している企業は13社程度です。その中で一部のトップメーカーが4割のシェア、あとは1割くらいの企業が3～4社、残りの企業でそれ以下のシェア率といった比率になっています。

グレーチング業界のマーケットが縮小していく中で、当社ではグレーチング以外の分野としまして、特に防災・減災や維持・修繕に関する事業に現在は注力しています。

■ ハイテン鋼を使用したオンリーワン商品

聞き手：御社では従来の鋼材とは異なる商品も展開していると伺いましたが、どのような商品なのでしょうか。

浅野社長：グレーチング事業は、先程も言ったように、ある程度同業者でのシェア率が固まっている中、同じことを続けていると渡り合えなくなると考えています。

そこで2008年からハイテングレーチングという、ハイテン鋼を使用したオリジナル製品を展開しており、これは特に自動車分野において強度と軽さが必要な箇所に積極的に使われる素材なんですけど、他社と差別化するために、この材料をグレーチングの主部材として取り入れました。

この製品を開発する一番の目的が、グレーチングの軽量化に対応するためでして、身近な例でいうと自治体等



▲ ハイテングレーチング



▲ EZメタルウォール

【写真左】

ハイテングレーチングは、従来スチールグレーチングと比較して耐力の高いハイテン鋼を主部材に使用することで、軽量化を実現しています。

【写真右】

EZメタルウォールは側溝の側壁に差し込んでいくだけで越水、跳び水を防ぐことができる鋼製擁壁です。コンクリート製の資材とは違い、軽量で持ち運びが容易のため重機やクレーンでのつり上げが不要です。

で地域清掃をする際にはグレーチングの取り外しが必要なのですが、取扱いをされる住民のために軽量化が求められており、対応できる製品として開発しました。

■ グローバル展開も見越した環境配慮へ

聞き手: 御社事業における環境配慮について、お考えをお聞かせ願えますでしょうか。

浅野社長: さきほど紹介したハイテングレーチングは、従来製品と比べ、約30%のCO2排出削減を実現しています。今後世界を販売マーケット先として考えると、環境問題に対応しやすい、軽量でCO2の排出量が少ない当社だけしか作ることのできないこの製品は競争力があり、拡販できるのではないかと考えています。

■ SNSを通じた事業PRについて

聞き手: 御社のHPを拝見させて頂きますと、サイトの見やすさはもちろんですが、各種SNSも非常に活発ですね。多くの方にフォローされていますが、お考えや工夫についてお教えてください。

浅野社長: この分野に関しては社員と外部のクリエイターで構成された特別チームが担当しておりまして、主に当社製品を使用した場合に、利用者にとって、どれぐらいのメリットがあるのかをわかりやすさと映像的な面白さを交えて情報発信しています。

また各種SNSは表現についてのコンセプトをそれぞれ変えています。例えばYouTubeは当社製品のPRや利用方法、インスタグラムは芸術性の高いグレーチングの画像、フェイスブックとX(旧Twitter)はその間を埋めるような投稿というイメージで、2年前から毎月最低でも4つくらいあげてまして、いかにバズらせることのできる投稿ができるかを考えてやっています。

過去の実績で言いますと、当社の開発した新商品を取り上げた動画で500万回以上まわったショート動画が2本ありまして、十分な営業ツールとして活躍してくれています。

■ “人”材育成について

聞き手: “人”という面において、社員教育も含めて御社で色々と気を付けている点はございますでしょうか。

浅野社長: 私たちが仕事に取り組む姿勢としては4つポリシーをかかげておりまして、「誠意」では真心をもってお客さんに接してほしい、「努力」では課題に立ち向かい自己成長してほしい、「発想」では課題解決にあたり柔軟な考え方をしてほしい、「挑戦」では現状を良くしていく行動や変化を恐れずにしてほしいという思いがありまして、弊社のロゴマークである四葉のクローバーに込めて従業員に伝えています。

特に社内行事や新しいプロジェクトについて従来の組織形態とは別に、様々な部署から選抜してチームを作ってお任せしており、従来の仕事だけでなく、いろいろな取り組みを通じて4つのポリシーがより体现しやすい場を提供しています。

聞き手: 最後になりましたが、休日の過ごし方やご趣味についても聞かせてください。

浅野社長: 7年前から体づくりのための筋トレにはまりまして、どうせやるなら目標をもって取り組もうということで、パワーリフティングの分野を重点的に取り組んでいます。最近ではベンチプレスで目標であった100kgをあげられるまでに筋肉をつけることができるようになりました。

あともう一つの趣味としては、サウナも大好きで、地元のサウナ施設を中心に毎週2回くらいは通っています。特にサウナで汗をかいた後に飲む、キンキンに冷えたビールはやめられませんね。

聞き手: 本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 (一社)岐阜県経営者協会 広報部会委員
日本印刷(株)

代表取締役社長 **若山 雅彦**

経協ニュース

第58回岐阜県監督士養成講座がスタート

5月16日(木)に長良川スポーツプラザにて、「岐阜県監督士養成講座」がスタートしました。本講座は、「人格と技術をともに兼ね備えた人材育成」をモットーとし、ケーススタディやワークショップなどを取り入れた約2か月のカリキュラムで、現場の管理監督者・候補者が、異業種の交流を図りながら学ぶ研修です。

開講式では、監督士認定委員を代表して山口 英俊氏(岐阜プラスチック工業(株) 総務統括本部長)から47人の受講者に向けて、全8講の講座で職場のリーダーとしてのスキルや心構えを十分学んでいただくようご挨拶をいただきとともに、受講者代表より本講座に臨む意気込みを宣誓していただきました。

また四橋 英児氏(ヨツハシ(株) 代表取締役社長)により経営者講話をしていただきました。反射神経を競うワークやカードを用いたゲームを行って受講者同士が親睦を深め学び合う雰囲気を高めるとともに、経営者の目線からリーダーとしての考え方や職場運営に関するアドバイスを伝えていただきました。



開校式の様子



今年度受講者の皆さん

第1講 5月16日(木) 「管理監督者の役割」

講師:堤 卓雄氏

本講座全体の導入の意味も込めて、管理監督者に求められる、職場をまとめ部下後輩を育成していく基本的な役割や、管理監督者を取り巻く環境、立場、心構えなどについて、グループ討議を交えて受講者同士で意見交換しながら概要を掴んでいただきました。

【受講者の声】

- 監督者として必要な技能について、講師の実体験を基にした話が多く、分かりやすかった。
- 色々な気づきがあり、グループ討議も交え、楽しく進行できた。
- この講座が続いている意味や必要性を感じることができ、残りの講座も楽しみにになった。



第1講の様子

第2講 5月23日(木) 「チームビルディング」

講師:内藤 正信氏

職場のチームワークを高めていくための考え方、スキルについて、最近の新入社員・若手社員の傾向、部下後輩の長所・短所のつかみ方やその伝え方、「年上の部下」への接し方などの観点から解説するとともに、異業種のメンバー同士でチームワークを発揮するための演習やグループ討議による意見交換も交えて学んでいただきました。

【受講者の声】

- 年上の部下との付き合い方や、今の若い社員が求めている事など、最近の困り事について明確に知る事ができ、明日から職場で実践してみたい、という思いが強くなった。
- 考え方一つで、相手のネガティブな面をポジティブな言葉に置き換えることができ、言い方一つで伝わり方も大きく変わることに気づくことができた。
- 講師の話聞くだけでなく、グループワークの比率が多く、他社の方との親交も深まり、受講者同士のチームワークの向上が実感できた。



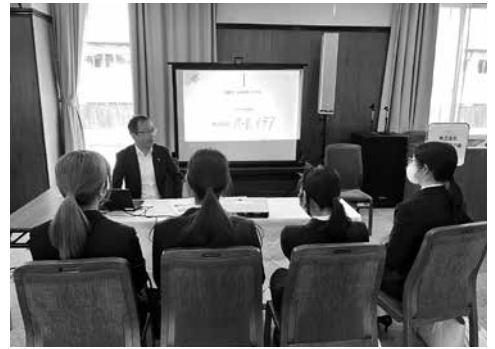
第2講の様子

大垣女子短期大学共催「学内合同企業説明会」を開催

5月8日(水)大垣女子短期大学との共催にて、デザイン美術学科2年次生を対象とした学内合同企業説明会を開催し、企業8社、学生26名にご参加いただきました。

当日は企業の個別ブースを設置し、そこへ学生が訪れ、各社の担当者から会社概要、今後の説明会日程などを説明し、学生からの質疑応答に対応する形式で行いました。

参加した学生さんは自発的かつ積極的にブースを訪問し、どのブースも訪問者が途切れることなく進行了ため、終了時刻が延長するなど熱心な様子が伝わる説明会となりました。



岐阜支部 第1回推進会議を開催 **岐阜支部**

4月24日(水) 岐阜商工会議所において開催し、4名の委員にご参加いただきました。

推進会議では5月31日(金)に予定している総会における当日の担当割り振りについて確認や、今後実施する2024年度セミナーテーマについて議論しました。

今後の行事予定については、詳細事項が決まり次第、岐阜支部会員企業様へ随時ご案内申し上げます。

岐阜支部 行事予定	
5月31日	総会・記念講演会
8月	第1回セミナー
10月	第2回セミナー
12月	第3回セミナー

※上記行事予定は今後変更となる場合もございます

2024年度 飛騨支部 管理・監督者養成講座 実行委員会を開催 **飛騨支部**

4月24日(水) 高山商工会議所において飛騨支部主催にて年1回2日間にて開催している職場のリーダー・管理職向け研修の実行委員会を開催いたしました。今回は、昨年の反省をもとに、カリキュラムの概要と、経営者講演の候補者について審議いたしました。開催は11月を予定しており、募集は7月から行う予定です。

「飛騨支部通常総会」を開催

5月15日(水) 高山グリーンホテルにおいて開催し、飛騨支部会員企業より22名にご参加いただき、議案「令和5年度事業報告、収支決算承認について」、「令和6年度事業計画(案)、収支予算(案)について」「退任に伴う役員選任(案)について」いずれも原案の通り承認されました。

総会終了後には恒例の懇親会を開催し、ご出席いただいた皆様はそれぞれ情報交換をされるなど、会員相互の親睦を深めていただきました。



西濃支部事務局会議を開催 **西濃支部**

5月15日(水) 西濃運輸(株)本社会議室においてハイブリットにて開催いたしました。

今回は5月22日(水)開催の定期総会の最終打ち合わせが主となり、円滑なる総会運営のために、当日のスケジュールと担当の動線確認を行いました。

例年通りで総会出席者は約60名(委任状を除く)を見込んでおります。

その他、本年度の主要行事、各種セミナーの日程などを確認いたしました。

中濃支部総会を開催 **中濃支部**

5月17日(金)みの観光ホテルにおいて開催し、総会では、岸田 英三支部長(フェザー安全剃刀(株) 代表取締役社長)よりご挨拶いただいたのち、2023年度の事業報告・収支決算と2024年の事業計画案・収支予算案などについて審議され、原案通り承認されました。

総会終了後、記念講演会として、講師に一般社団法人日本刑事技術協会代表理事で人事コンサルタントの森 透匡氏をお迎えし、「採用面接や不祥事防止に役立つ、人間心理(ウソ)の見抜き方」と題し、開催しました。

元刑事として2,000人以上の犯人や参考人を取り調べ事情聴取した経験から体得した、ウソを見抜くためのサイン(相手のしぐさや話し方)や採用面接などでの効果的な質問の仕方について解説していただきました。



各務原支部事務局会議を開催 **各務原支部**

5月21日(火)岐阜車体工業(株)において開催し、今後の各務原支部活動について会議を行いました。

会議では支部総会における、事務局の各種役割についてや、今後のセミナーテーマ、優良企業視察先について話し合いました。

今後の各種事業内容につきましては、詳細が決まり次第、支部の皆様にご案内させていただきます。



中津川支部 第一線管理・監督者養成講座 職場実践報告会を開催 **中津川支部**

5月24日(金)中津川商工会議所において、今年2月に開催した「第19回第一線管理・監督者養成講座」の受講生12名による、2カ月間の職場実践報告会を開催しました。各職場の課題をテーマに設定し、取組状況、経過報告を発表し、受講者で共有しました。当日は上司の方にもご出席いただき、各社の取り組み状況について、活発な質疑、意見交換も行われました。

最後に、中津川支部 副支部長の林 彰氏(DAISEN(株) 社長)より挨拶があり、修了証が授与されました。



～会員の皆さま～ 新規会員を募っています。

当協会では、より多くの県内経営者の皆様に岐阜県経営者協会をご利用いただきたく、新規会員企業を募っています。当協会の趣旨にご賛同いただける経営者の方がいらっしゃいましたら、事務局員がご説明にまいりますので、何卒ご紹介くださいますようお願いいたします。

岐阜経協の活動は、当協会ホームページ(<https://gifukeikyo.org>)でもご覧いただけます。